

令和七年四月二日（水）、東京都荒川区「日暮里サニーホール」に於いて「第三十六回花と緑の吟行会」が行なわれました。選句結果は以下の通りです。

大会賞

六尺の世界は広し花の雨

小林 文隆

逆さまの鸚哥の貌や花の雨

篠塚 雅世

彫像に大いなる臍春の塵

中島真由美

今井 聖選

特選 蕨売る夕焼だんだんセピア色

頓所 友枝

味三つ佃煮買ひぬ花めぐり

大島 省子

花冷のスパンコールの古着かな

三森 梢

入選

春風や話し相手はたれですか

岡田みさ子

そこまでと猫のつきくる花の雨

丹羽 啓子

お互ひに上の空なる花疲れ

森岡 正作

逆さまの鸚哥の貌や花の雨

篠塚 雅世

にはたずみの型に散り敷く桜かな

高山 圭子

春深む百の燈下にベリーダンス

古岡美恵子

山吹や木の表札に五つの名

千葉まどか

彫像に大いなる臍春の塵

中島真由美

衣擦れのやうな風聴く糸ざくら

坂下千枝子

ウーバーイーツ桜の墓地を駆けにけり

堀内由利子

花の雨指ちんまりと靴の中

山下 桐子

井戸ポンプ枝垂れ桜の神の中

宮澤美智子

ボンベ運ぶ桜まつりの店の裏

長谷川野蒜

海老揚ぐる油の湯気や花の雨

中西 夕紀

老桜ゴジラのやうな木肌なり

山田まゆみ

満目の桜を黄泉の人とあり

秋山ユキ子

花冷えの彫像ジャッキチェーンめく

高橋 麗子

幻の五重塔にけふの花

恩田 洋子

清秀童子行年四歳葦草

宮坂 恵子

外壁を這ひ回る樋春寒し

仲村 初穂

大西 朋選

特選 谷中にも貝塚のあり鳥雲に

六尺の世界は広し花の雨

花冷や店主と並ぶ招き猫

入選

一斉に春の森発つ伝書鳩

霊園を抜け葉桜となりにつけり

跨線橋渡れば谷中花の雨

パークのフードに桜散りゆけり

日暮りはさびしき名前春の雨

朝風に吹かれて寺の糸桜

花冷や西郷像は地面見ず

春雨や傘の子の傘左右に揺れ

行き合ひの人とほほえむ桜時

ふる雨に花の雫のふるへをり

逆さまの鸚哥の貌や花の雨

絶滅もままありにけり目借時

「考える人」の尻にも花の塵

花の雨象の背中の濡れ色に

彫像に大いなる臍春の塵

傘鞆持ちて坂駆け新社員

ブロonzの猫の背伸びや花曇

花冷やA定につく生たまご

海老揚ぐる油の湯気や花の雨

春雨や顔丸々と谷中猫

鈴木多江子

小林 文隆

須田美代子

斉藤 明子

西澤みず季

広海あぐり

西澤みず季

塚田 見太

田畑 輝子

涼野 海音

岸 保子

熊澤 洋子

津布久信雄

篠塚 雅世

村生 浩介

山本 稚子

清水 和代

中島真由美

橘田 麻伊

安田のぶ子

百橋 美子

中西 夕紀

松岡 洋子

鈴木 久美子選

特選 幻の五重塔にけふの花

日暮しの里や日暮れて花の冷

蘆の芽に鯉の跳ねたる波紋かな

入選

空耳か否落椿又一つ

一と撞きの寺鐘が誘ふ花吹雪

絵地図手に谷中界隈春の雨

跨線橋渡れば谷中花の雨

パークのフードに桜散りゆけり

老桜の散る一路あり谷中墓地

朝風に吹かれて寺の糸桜

恩田 洋子

森 一平

宮木登美江

佐々木瀬都

小林 泰子

本池美佐子

広海あぐり

西澤みず季

芝田恵美子

田畑 輝子

御殿坂のぼりて枝垂れ桜かな
枝先のみな跳ね真白雪柳
樹下に莫塵敷き車座の花の宴
百年の根張り寺苑の藤垂るる
五重の塔跡の礎石へ飛花落花
蠟とぼる観音堂や花の雲
しづくしてまなぶたほどの花の色
山門の弾痕濡らす花の雨
奏楽堂灯りて若葉雨止まず
天王寺露座仏拝し春惜しむ
寺町にいつ止むとなく花の雨
花の雨止み薄日さす谷中かな

安藤 和子
田畑 輝子
小中 良江
菅江 克子
塩野谷慎吾
小中 良江
山崎 杏
草野 道子
八重樫安子
八重樫安子
中島真由美
乗田真紀子愿

鈴木 太郎選

特選 逆さまの鸚哥の貌や花の雨

篠塚 雅世

あたたかや母を隣に子規の墓

齋藤 満月

衣擦れのやうな風聴く糸ざくら

坂下千枝子

入選

蟲塚に慈愛の雨や花の寺

本池美佐子

風船を空に盗られし子の放心

久我 寿幸

初燕弁財天と待ちわびる

井手美代子

フレイラの涙か谷中花しぐれ

大島 省子

谷中にも貝塚のあり鳥雲に

鈴木多江子

蠟とぼる観音堂や花の雲

小中 良江

花冷や鬚の力士は短パンで

北本 佳子

お互ひに上の空なる花疲れ

森岡 正作

球場に子規の残影風光る

井手美代子

新しき日の始まりや朝桜

鈴木 陽子

花冷えや角打ち人等越後屋に

岩波 博庸

現し世の満つるも散るも桜かな

軽部 敏江

錫杖の失せて地藏に花の雨

山本 稚子

散骨を選びし友や花曇

野原 摩湖

桜咲く白杖の女おりたちぬ

三神 幸恵

とんがりの庖丁塚や糸柳

西田 啓子

春雨や顔丸々と谷中猫

松岡 洋子

満目の桜を黄泉の人とあり

秋山ユキ子

花桃や学童守護の碑を守り

山田まゆみ

春障子開くれば子規の狭庭かな

相川 幸代

土肥 あき子選

特選 六尺の世界は広し花の雨

彫像に大いなる臍春の塵

ブロンズの猫の背伸びや花曇

入選 空耳か否落椿又一つ

飛び石のすきまさすきまに草青む

彫刻の猫の百態花の冷え

伐られたる桜に春の雨やはらか

花冷えや腰に下げたる鍵の束

人生の途中の桜仰ぎをり

枝先のみな跳ね真白雪柳

花冷や西郷像は地面見ず

五重の塔跡の礎石へ飛花落花

駄菓子屋のザルに落花の二三片

心音の早さに桜散りにけり

木造の茶房谷中にあたたかし

逆さまの鸚哥の貌や花の雨

夕やけだんだん下れば春の水溜り

にはたずみの型に散り敷く桜かな

絶滅もままありにけり目借時

余生とは死ぬまでのこと花の冷

下宿屋の硝子の引戸花楓

銃弾の穴より春の経王寺

春障子開くれば子規の狭庭かな

小林 文隆

中島真由美

安田のぶ子

佐々木瀬都

浪江 野歩

みわ・さかい

丹羽 啓子

矢作十志夫

山下百理子

田畑 輝子

涼野 海音

塩野谷慎吾

宮永 武彦

涼野 海音

下谷内綾子

篠塚 雅世

金澤 恵子

高山 圭子

村生 浩介

鈴木 基之

三森 梢

岩崎 曜

相川 幸代